

学びの杜通信

第28号 平成28年11月9日発行



第7期「とちぎの教育未来塾」が始まりました。 **育てます**

平成28年度 第7期「とちぎの教育未来塾」に228名という多くの応募をいただき、10月8日（土）に開講を迎えました。本研修は、学生や若手教員の育成の場として、これまでも研修の充実に向けた工夫・改善に努めてきました。今年度は、一層の充実を図るために、校種に分かれての研究協議、保護者への対応を取り入れるなど、これまでより一歩踏み込んだ実践的な内容としました。受講者には、研修を通して、教員としての自覚や教職に対する情熱・使命感を高めてほしいと願っています。

ここでは、第1日、第2日の研修の様子を御紹介します。

第1日〔10月8日（土）〕

「開講あいさつ」、「オリエンテーション」、演習「教師を語ろう」を実施しました。「開講あいさつ」では、当センターの所長から、本研修の目的や受講者への期待を伝えました。演習「教師を語ろう」では、「自分はどんな教師になりたいか」を再確認し、「そのために、この研修で何を学びたいか」について話し合いました。受講者からは、「現職の先生方や学生の皆さんと話し合うことで、理想の教師像がより明確なものになりました。日々の悩みに共感し合ったり、異なる校種の先生方の話から新たな世界を広げたりと、多くの学びがある一日でした。」などの感想がありました。



開講あいさつ



演習「教師を語ろう」

第2日〔10月22日（土）〕

「所長あいさつ」、須藤 稔 元栃木県教育委員会教育長による特別講話「第7期生への期待」、講話「自己有用感を理解しよう」を実施しました。「所長あいさつ」では、本研修を通して身に付けてほしいことなどについての話があり、受講者は、研修に臨む気持ちを新たにされた様子でした。続く「特別講話」では、「自分の学び方、磨き方について深く考えさせられました。授業の質の向上を目指し、効果的な指導法を自分なりに研究することが必要であると思いました。」などの感想が、講話「自己有用感を理解しよう」では、「自己有用感は、他者とのかわりの中で高めていけることを改めて学ぶことができました。」などの感想が寄せられました。



特別講話



講話「自己有用感を理解しよう」

第1日、第2日とも、受講者が共に学び合う姿が研修会場にあふれました。研修の様子は、以下のホームページから御覧いただけます。今後とも「とちぎの教育未来塾」をよろしくお願いいたします。



たくさんの御応募ありがとうございました！

広げます

①第60回日本学生科学賞栃木県展覧会

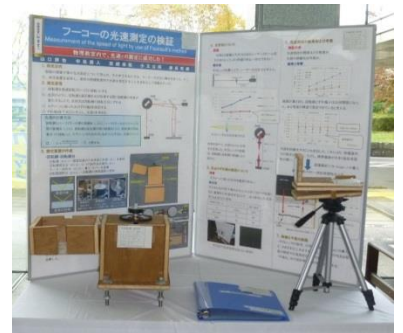
今年度は、中学校から5作品、高等学校から20作品の応募があり、10月6日に栃木県総合教育センターで行われた審査委員会において、6作品の最優秀賞のほか、優秀賞9作品、優良賞5作品が決定されました。最優秀賞に選ばれた6作品は、この後、東京で行われる中央審査に出品することになります。

今回、出品した全ての生徒が「自然界の奥深さ」や「探究の楽しさ」などを味わうことができたのではないかと思います。本展覧会で期待しているのは、学校の授業の中や身近な現象の中に隠れている疑問や謎を、科学的手法を用いて解明するプロセスです。来年度も、物理・化学・生物・地学・広領域のいずれかの領域で「科学する心」が伝わってくるような作品がたくさん応募されることをお待ちしております。

なお、今年度の本審査に出品された作品は、今後、当センターのホームページで公開する予定（11月中旬）です。



【中学校の部 最優秀賞（知事賞）】



【高校の部 最優秀賞（知事賞）】

→Click! <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/tenrankai/h28-kagakusho/tenrankai.htm>

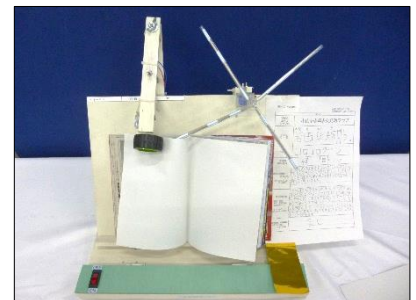


②第66回栃木県児童生徒発明工夫展覧会

今年度は、小学校から71作品、中学校から25作品、高等学校から42作品、小山市少年少女発明クラブから55作品、合計193作品の応募がありました。10月19日に栃木県子ども総合科学館で行われた審査の結果、金賞10作品、銀賞15作品、銅賞20作品が決定しました。10月21日～23日に開催された展覧会では、延べ1200人を超える来場者がありました。金賞を受賞された作品は、「第75回 全日本学生児童発明くふう展」に推薦されます。

今回応募いただいた作品には、小学校低学年の、機械的な動きやゴムや磁石の特性を使った仕掛けに着目したものから、中学生や高校生の、日常生活上の問題を解決しようとした実用的な作品まで、様々な視点で作られたものが数多く見られました。

「発明」や「ものづくり」は、「考える」という要素をふんだんに含んだ一つのプロジェクトです。知識と経験を生かして、試行錯誤しながら作品をつくることは、「学びを人生や社会に生かそうとする資質や能力」の育成につながるものです。来年度も、あっと驚く発明品の応募をお待ちしています。なお、今年度金賞を受賞した作品は、今後当センターのホームページで公開する予定（11月下旬）です。



【金賞受賞作品「コロコロターン」】



【金賞受賞作品「内村くんと白井くん」】

→Click! <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/tenrankai/h28-hatsumei/kinsyo.htm>



○この通信に関する御意見・御感想をお待ちしています。入力・送信は [こちら](#) から
・センターホームページ（TOP）は、[こちら](#) ・学びの杜通信のバックナンバーは、[こちら](#)